

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2024年度)

専門分野区分	ゲーム応用	科目名	ゲームアーキテクチャ概論				科目コード	T3120A2		
配当期	後期	授業実施形態	通常				単位数	2 単位		
担当教員名	明石 美則	履修グループ	2F(GP/SP)				授業方法	演習		
実務経験の内容	IT業界でプログラマー、システムエンジニアとして3年、製造業の生産管理統合システムに携わるのちに、ゲーム業界で約9年プログラマーとして、コンシューマーゲームの開発に携わるこれらの実務経験に基づき、プログラミングで必要な知識や技術を指導する									
学習一般目標	ゲームプログラム中に多用されるアルゴリズムやクラス構築方法などの考え方を修得する 他人のプログラムを解析する力を培い、適切に再配置することができる									
授業の概要および学習上の助言	ゲームのプログラムは、一連の処理を複雑に絡み合わせたものとなっている 様々なオブジェクトの相互の関係を認識し、適切に分割・分配することでプログラムの見通しは非常によくなる 本科目では、プログラムの改善として使われる手法を見ながら、なぜその方法が必要なのかを考えていきます									
教科書および参考書	技術評論社「良いコードを書く技術」 必要に応じて2DGP1/2の教科書を参照する									
履修に必要な予備知識や技能	これまでのゲームPG関係科目の処理内容を復習しておくことが望ましい。									
使用機器	WindowsPC									
使用ソフト	Visual Studio 2022									
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標								
	1	システムとしての流れ、枠組みを理解し、整理することができる								
	2	変更されたプログラムから、なぜ変更が必要であったかを考えることができる								
	3	他人を含む複数の視点から見た意見を出し合い、議論することができる								
	4	改善理由、改善項目などを論理的に文として表現することができる								
	5	積極的に議論に参加し、自身のプログラミングなどに反映する意欲をもつ								
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	学部DP	1.知識・理解			20	10				30
		2.思考・判断			5	5				10
		3.態度			10	10				20
		4.技能・表現			10	10				20
		5.関心・意欲							20	20
	総合評価割合				45	35			20	100
評価の要点										
評価方法		評価の実施方法と注意点								
試験										

小テスト	
レポート	課題に対して毎時レポートをまとめる。改善点・改善法、その他独自の視点などを的確に捉えることが出来ているかで判断する
成果発表(口頭・実技)	授業中に行なう個人またはグループに対する質問・発表などで評価する
作品	
ポートフォリオ	
その他	出席状況や、グループでの学習時はそこへの参加・貢献とうにより判断する

授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	授業内容について ・第1章 良いコードとは何か ・第2章 良いコードを書くための5つの習慣 ・サンプルプログラムについて	講義・演習	
第2回	名前の重要性 ・第3章 名前付け ・名前によく使われるキーワード ・リファクタリング	講義・演習	
第3回	名前を考える ・第3章 名前付け	講義・演習	
第4回	影響範囲を考える ・第4章 スコープ	講義・演習	
第5回	コードの分割 ・第5章 コードの分割 ・可読性、保守性、再利用性 ・共通コードと例外	講義・演習	
第6回	コードの分割 ・第5章 コードの分割 ・制御構造、関数、構造体	講義・演習	
第7回	コードの集約 ・第6章 コードの集約 ・コードの重複の回避 ・クラス化の役割	講義・演習	
第8回	クラス化 ・第10章 抽象化 ・インタフェース ・カプセル化	講義・演習	
第9回	クラス化 ・第10章 抽象化 ・状態によってクラスを分ける	講義・演習	
第10回	クラス化 ・クラスの継承	講義・演習	
第11回	パフォーマンス ・第8章 コードのパフォーマンス ・不要処理の不実行	講義・演習	

第12回	テスト ・第9章 ユニットテスト	講義・演習	
第13回	まとめ ・良いコードと何か	講義・演習	
第14回	課題解決型授業1 コードの集約の方法と具体例を考える 第7章 データ構造	遠隔授業 実施時期:6期	
第15回	課題解決型授業2 実際のコードからパフォーマンスを考える	遠隔授業 実施時期:8期	